

【研修の企画・効果・提案】参考資料

外村さま

お世話になります、日本報連相センターの波多野勝則です。

外村さんからの下記のご相談に対して、返信させていただきます。

「今までに、管理職を対象に1日の「真・報連相研修」をされた方で、このような進め方で、その後このような結果に結びついた・・・などの経験をお持ちの方やアイデアをお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひアドバイスをいただきたく皆様にご相談のメールをさせていただきました。」

ご担当者の方が、外村さんの説明のどの部分に、なぜ興味を示されたのかわかりませんので、ピンポイントのアイデアを出す自信は全くないのですが、外村さんの熱意に少しでもお応えできたらという気持から、「このようなご提案を試してみる方法もあるのでは・・・」という感じで、企画書の素のようなものを、下記に書かせていただきました。少しでもお役に立てば嬉しいです。

(A案)

【研修プログラム】

NHCのホームページにある「標準プログラム」

【期待効果(目的)】

受講者の皆さんの報連相(情報伝達)の仕方が、

「情報の共有化を深める」ことを意識したそれへと変わります。

業務の効率が高まります

受講者(管理者)の方が、職場で「目的」という言葉をよく使われるようになります。

その結果、部下の方のとり方・手段がより効果的なものになり、

且つ、部下の方の理解欲求が満たされるので、モチベーションも高くなります。

(B案)

【期待効果(目的)】

こちらから提示するのではなく、
まず、担当者の方に下記のような質問をして、
担当者の方のWANTSを絞込み、
それを【期待効果(目的)】として設定し、
それにあつたカリキュラムをご提案する
という方法もありかな、
と思います。

例えば、次のような(お話 + 質問)を試してみるというイメージです。
「1日研修で期待される成果としては、

例えば、研修終了時に、
『真・報連相の行動10箇条のうち、少なくとも3つは意識して行動してみよう』
とお願いいただけると幸いです。
どれを意識して行動されるかは、受講者お一人お一人の選択ですが、
もし、〇〇さん(担当者の方のお名前)の方で、
『特に、このあたりを意識して行動して欲しい』というご要望がありましたら、
それを事前にお伺いしておいて、そこに注力した進め方をさせていただく
ことはできると思います。

ちなみに、
〇〇様は、この10箇条の中では、
どの項目を受講者の方が意識して行動してくれるようになったら、
『この研修をやって良かった!』と思われそうですでしょうか？

【研修プログラム】

例えば、
先日、中富さんが講師をされた
「Lカード勉強会」の手法を参考にされながら、
担当者の方が関心を示された「真・報連相の行動10箇条の中の項目」に関連の深い
「Lカード」に
焦点化したワークをする、というのもよいのではないのでしょうか。

(進め方としては、次のようなイメージです)

オープニング

(挨拶、アイスブレイク、研修の概要説明、自己目的、ヒントのメモ)

真・報連相の学習

『真・報連相のレベル表』で、真・報連相の全体像を知っていただき
次に、「担当者の方の関心事」に関係の深い『Lカード』を使ったワークで、焦点化
し

その『Lカード』の解説を、『真・報連相のハンドブック』を活用して行う

まとめ

真・報連相の行動10箇条を紹介し、次のような解説をします。

「今日は、10箇条の中で、特に、○と と の3つにフォーカスしました。

これ以外にも沢山役に立つ内容がありますので、

ぜひ、『真・報連相のハンドブック』で継続学習してください。」

「これだけは止める・これだけはやる」の形で、

行動計画を作ってもら

以上は、あくまで波多野のアイデアですので、

外村さんのイメージしておられるものとは違っているかもしれません。

担当者の方のニーズや性格に合っているかどうか分かりません。

外村さんの発想の呼び水にでもなればと思い、書かせていただいた次第です。

最後になりましたが、外村さんの益々のご活躍をお祈りいたします。

2009.4.13 波多野勝則